

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和5年度 第7回佐渡市公共施設あり方検討会議
開催日時	令和6年1月17日(水) 18:30~20:30
場所	新穂地区公民館(新穂行政サービスセンター) 2階 第2・第3学習室
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>1) 議論の進め方(説明)</p> <p>2) 財産分類の方向性検討</p> <p>① 博物館等、体験実習施設</p> <p>② 体育施設</p> <p>③ 図書館</p> <p>3) その他</p> <p>3 閉会</p>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>≪公共施設あり方検討委員≫(12名)</p> <p>≪市役所≫(11名)</p> <p>・事務局 財産管理課長 齊藤 昌彦 財産管理課課長補佐 若林 昭宏 財産管理課公共施設適正化推進係主任 中川 英幸</p> <p>・オブザーバー</p> <p>教育委員会社会教育課社会体育係 教育委員会社会教育課中央図書館 教育委員会社会教育課佐渡学センター 観光振興部世界遺産推進課 農林水産部農林水産振興課 社会福祉部社会福祉課</p>
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	1人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
事務局	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>1) 財産分類の方向性検討</p> <p>① 議論の進め方（資料 01 により説明）</p> <p>事務局で本日の内容を想定する中で、議事の順番を変更させていただきたい。</p> <p>①→② 博物館等、体験実習施設</p> <p>②→③ 体育施設</p> <p>③→① 図書館</p>
社会教育課 中央図書館	<p>2) 財産分類の方向性検討</p> <p>① 図書館</p> <p>○ 施設説明、図書館事例共有（資料 04-1、04-2 により説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内図書館は、旧市町村区域に 1 か所ずつ計 10 施設あり、そのほとんどが他施設との複合施設。 ・図書館を主とする施設は、中央図書館、真野図書館、小木図書館の 3 施設。 ・図書館ネットワーク形成しており、どこでも予約・貸出しが可能。 ・図書館業務は本の貸出しだけでなく、レファレンス業務、子供向けのお話し会などの業務もある。
A 委員	<p>電子図書館、レファレンスサービスのデジタル化について、今後の見通しを伺いたい。また、デジタル化に係るメリット・デメリットも伺いたい。</p>
社会教育課 中央図書館	<p>電子図書館はコロナ禍を契機に増加している。長野県の動向として、令和 4 年から「デジとしょ信州」という長野県在住であればだれでも利用できる電子図書の実取組も始まっている。</p> <p>レファレンスのデジタル化対応としては、国会図書館のレファレンス共同データベースがある。これは、全国の加盟図書館での問い合わせ内容をデータベースに載せることで、誰もが検索し結果を見ることができるもの。</p> <p>佐渡市においてもよくある質問やレファレンス事例集をホームページに掲載している。</p> <p>デジタル化のデメリットとしては、ネット環境の整備が必要なこと。</p> <p>【グループワーク】図書館</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 目指す姿（事例を参考に、アップデート後の姿をイメージ） II. 現在から目指すべき姿になるにあたって発生する課題 III. 課題を改善するための施策

【A 班】

- ・図書館は収益施設でなく、本に触れることで教育と文化の発展に寄与することが目的であり、そこに人が集まることで本を通じてコミュニケーションが図られることが大切ではないか。
- ・子供からお年寄りまでの居場所となり、世代を超えたコミュニケーションが図られるとより人も集まり、文化レベルの向上にもつながる。
- ・課題として利用者が少なく、本離れもあり本を借りていないこと、遠方にあり行きたい場所がないことが挙げられた。
- ・市民主体での本をテーマとしたコミュニティの場作り、盛り上げが重要。
- ・特色があるから人が集まり、同じテーマでコミュニティができる。また、他地域の方とのコミュニケーションが図られる。そんな場になるとよい。

ファシリテーター

司書等の役割が、学芸員よりの何らかのテーマ性を持つものとなり、興味のある方がスタッフになる。

市民が主体となって運営を担っていく可能性もなくはない。

【B 班】

- ・図書の充実が必要ではないか。
- ・各図書館（室）に司書を置き、レファレンス等でどこでも同水準のサービスが受けられる必要があるのではないか。
- ・旧市町村 10 か所に図書館（室）が存続し、かつ周辺部は移動図書館があるので利用サービスについては十分だと思う。
- ・10 年を目指したより良いサービスを考えると、電子図書という手段を求めなければいけないのではないか。
- ・電子図書の普及とともに、現状の中の図書館（室）の必要性が薄れた場合には初めてそこで、市の施設から外すことも検討してもよいのではないか。
- ・突然、アナログからデジタルへの切り替えはできないので、両方併用する期間が必要。
- ・アナログで読書する方、時間がなくてデジタルで読む方など、サービスの観点からアナログ・デジタルの両方を目指すべき。その結果としてコストをどのようにコントロールするかが重要。

【C 班】

- ・行きたい図書館の距離が遠いことから、学校図書室の活用し充実させたらどうか。
- ・図書館の特色化を図り利用したい図書館を目指す。
各図書館にある特定の種別のをまとめ特色化することで、比較のしやすさや他地域からの来館者との交流などのメリットもある。

アドバイザー	<p>特に図書館ありきでなく、図書館の存在目的の議論がすごく大切だと思う。皆が本に親しむことが大切であり、いかに皆が行きたいと考える施設にするか。むしろ人が集まるところに、本を置いてくなども必要になると思う。例えば、カフェがあれば、もっと親しみやすいなどの発想があってもよいと思う。最近の事例だと、必ずしも公共施設ではなく、私設の図書館として自分の好きな本を並べ、借りることもできる取り組みもある。それらと相補いながら、皆が本に親しめる環境を整備していくことを考えるとよい。</p> <p>I C Tや電子も重要なキーワードであり、1足飛びに電子図書館ではなく、まず電子書籍の利用を広げていくことで可能性が広がっていくのではないかと。</p> <p>特に今、読書バリアフリーの観点がすごく大切になってきている。電子書籍は目が不自由な方、ディスレクシアの方も本が読みやすくなるので、誰もが読みやすい環境作りとI C Tを活用してより効率的な読書環境を整備していく観点でも、電子書籍にも着目してよいと思う。</p>
事務局	<p>② 博物館等、体験実習施設</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 施設説明（資料 02 により説明） ○ 両津大川姫崎展示室 <ul style="list-style-type: none"> ・灯台の資料を展示。予約に併せて開館し、見学は無料。 ・地元集落で管理清掃を行っている。 ・運営を継続し、劣化による危険が生じた際に廃止も含め検討する。 ○ ふすべ村体験実習施設 <ul style="list-style-type: none"> ・体験施設では、陶芸・裂織・竹細工が体験でき、休憩施設とともに主に修学旅行生や観光客が利用している。宿泊施設は観光客の利用がほとんど。 ・地元の管理団体に管理委託。
社会教育課 佐渡学センター	<ul style="list-style-type: none"> ○ 博物館、資料館（社会教育課所管） <ul style="list-style-type: none"> ・いずれの施設も合併以前に整備されたもので、30～40年ほど経過している。 ・文化財に指定されている施設が5か所あり、文化財の観点から今後も保存活用が必要と考えている。 （史跡佐渡奉行所跡、相川郷土博物館、佐渡国小木民俗博物館本館 明治記念堂、金井歴史民俗資料館郷倉） ・施設全体として、経年劣化で修繕箇所が多く発生している状況。予算規模が大きくなる修繕はほとんどできておらず、小規模な修繕にとどまっているというのが現状。 ・主に観光での個人利用の割合が高く、統計のある平成16年以降の入館者数を見ると、観光入込み数の減少に合わせて来館者数も減少している。 ・施設の方向性として、現在策定作業を進めている博物館ビジョンにおいて、地域ごとの適正な施設配置を検討していく。 ・一番の課題は収蔵庫の問題。博物館・資料館に展示をしている博物館資料の他にもたくさんの資料があり、各博物館等の収蔵庫の中で保管をしているが、既

世界遺産推進課	<p>にキャパオーバーとなっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧北中学校を資料庫として利用をしており、廃校舎の利活用事例になるが、旧北中学校を資料庫として利用している。 <p>しかし、博物館資料の保存には紫外線対策や空調設備が必要であることから、単純にそのまま活用はできないという課題もある。</p> <p>○ 佐渡金銀山ガイドンス施設（きりりうむ佐渡）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国史跡指定されている佐渡金銀山遺跡の歴史や価値、魅力を伝えるためのガイドンス施設。 ・7月の県内学校の修学旅行利用が非常に多い状態で、冬季は利用数が少ない。基本は個人団体市外からの来訪される方メインで運用されてる状況。 <p>○ 埋蔵文化財整理事務所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設は築50年近くであり、コンクリートの壁が一部剥がれている状況。 ・今後の方向性として、廃校などの別施設を再活用し、文化財センターとして調査、整理、保存活用の一元化を図るべきと考えている。
社会教育課 社会体育係	<p>○ 勤労青少年ホーム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バドミントンや卓球などの軽運動ができるホール、研修室、音楽室、調理室がある施設。 ・指定管理施設で、地元団体が管理している。 ・施設は築43年で古いですが、地元を中心にホールでは健康作りの教室や会議室等も地元の憩いの場として活用されている。 <p>○ カルトピアセンター「素浜」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在使用していない施設であり、今後も使用しなければ廃止も検討する施設となる。 <p>【グループワーク】博物館等、体験実習施設</p> <p>I. 施設の選別</p> <p>II. 30%削減プランで生じうる課題</p> <p>III. 課題を克服するための改善策</p> <p>【A班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間から骨董品を預かり、旧市町村分の財産が溜り飽和状態。大変ではあるが、整理が必要。 ・カフェに貸し出しするなど、もっと人目に触れる機会を増やせないか。街中に展示物を置き、逆に民間に戻すこともあってもよいのではないか。 ・地域に拘らずにジャンルでまとめることで、見る方もわかりやすくなるのではないか。特に島外から来る人にとってはそれがよいと思う。 ・郷土は地域の特徴を出したい思いもあるが、まとめることで各地域の違い、特徴を示せるのかもしれない。

- ・相川技能伝承館は奥の倉庫であった場所が北沢テラスとなっている。このような形で活用もできるのではないか。
- ・きらりうむも佐渡も単純に民間移譲というわけではなく、回遊させる手法のところで民間の力も借りながらやっていくことがよいのではないか。
- ・鳥越文庫は、伝統芸能に関する特色を持った図書館として、畑野図書館もしくはどこかと複合化するとよいのではないか。

【B班】

- ・収蔵庫の不足が課題。
- ・文化財指定施設、利用者数が多い施設は維持していく。
- ・カルトピアセンター「素浜」、文化財に指定されていない金井歴史民俗資料館本館部分は、利用者も少ないので廃止でよいのではないかと位置づけた。
- ・勤労青少年ホームは、指定管理だからといって残す必要もなく、指定管理料が発生しているので、将来的に廃止か譲渡がよいのではないか。
- ・この後、廃校となった施設を活用し、文化財機能を機能移転したらどうか。
- ・鳥越文庫は、現在ある図書館に鳥越文庫コーナー等を設置し、集約化を図った方がよいのではないか。
- ・赤泊郷土資料館について、建物自体は残す必要があるものだが、資料等は別施設へ移せばよいのではないか。空いたスペースは、他のものに活用する方法もある。
- ・日本アマチュア秀作美術館について、他施設へ機能を移し、建物自体は廃止してもよいのではないか。

【C班】

- ・文化財は現状維持していく必要がある。
- ・勤労青少年ホームの機能は、近くの両津支所やあいぼーと佐渡で賄えるのではないか。
- ・カルトピアセンター「素浜」とふすべ村は、民間移譲や委託した方が運営的にうまくいくのではないか。
- ・両津郷土博物館、旧北中学校、埋蔵文化財整理事務所は、借地料が高いことが問題。収蔵スペースが無いので、3施設を複合化して廃校を活用しまとめる、もしくは新たに建設することも1つの案として考えた。

アドバイザー

文化施設が多いことに驚いたが、佐渡が文化豊かであることの証明でもある。だからといって施設すべてを残す必要はなく、個々の文化を残していくことが大切なので集約できるものは集約し、比較できる場としていくことを重視していくとよい。場合によっては、特色のある図書館づくりの議論とマッチする部分もあるかと思う。特色ある図書館に郷土資料も一緒に集め、図書館と博物館を一体的に考えていくこともあるのではないか。

勤労青少年ホームの実態はコミュニティ施設だと思うので、コミュニティ施設と

座長	<p>一体で捉えて検討するのがよいと思う。</p> <p>観光施設については、観光政策とセットで考えていくことが望ましいと思う。例えば観光ルートを設定することで施設利用を促すなど、民間との連携の可能性も高まると思う。民間施設とも一緒になった観光施策で利用促進を図る観点での検討もあってよいのではないか。</p> <p>収蔵庫として廃校を既に利用してるとのことだが、廃校利用の仕方としてすごくよいと思う。当然、収蔵庫が足りない状況であるので、整理したうえで廃校をうまく活用しながら収蔵庫を集約していくことはよい使い方ではないかと思う。</p> <p>博物館や資料館の目的をきちんと整理した方がよいと思う。市民の文化レベルの向上目的の一方で、観光目的の部分もあるので、相違反するものだが整理して考えておく必要がある。</p> <p>目的を明確にしないと、収益や利用者数の議論だけになりがち。目的が議論のポイントになるのではないか。</p>
事務局	<p>③ 体育施設</p> <p>○ 施設説明（資料 03 により説明）</p> <p>【野球場、陸上競技場、グラウンド、広場等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧小木多目的広場は、主に小学校グラウンドとして利用している。その他、少年野球や一般野球クラブ、地区の運動会などでも利用。 学校の附属施設であるので、学校が無くなった場合に今後を議論する。 ・ほとんどが野球場の形態であり、少年野球や一般野球クラブが主に利用している。 ・両津梅津多目的広場は、市民要望によりサッカー場として整備したが、直近3年は利用がない状況。 ・佐渡市陸上競技場は、全天候型の第3種陸上競技場として整備。 小学校中学校一般の陸上大会、またサッカー大会等を行う施設。 ・利用圏域について、佐渡市陸上競技場は市内唯一の陸上競技場のため、市内各地から利用者がいる。それ以外の施設は地元中心の利用。 ・借地料を支払っている施設がある。借地料以外の維持管理費は、草刈費用程度のみ。
社会教育課 社会体育係	<p>【ゲートボール場、テニスコート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐和田テニスコート、真野テニスコートは利用者が非常に多い。 利用が多い要因として、砂入り人工芝で非常に利用しやすい構造のため。 ・金井テニスコートも今年度中に砂入り人工芝へ改修する。 ・利用圏域について、佐和田テニスコートと真野テニスコート以外は、地元中心の利用。 ・ゲートボール場、テニスコートの維持管理の費用について、借地料がほとんどであり、それ以外の費用はほぼ発生していない。

社会福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・各施設ともに人工芝の経年劣化が見られている。 ・地元集落を中心に管理しており、主に地元ゲートボール愛好団体が活用。
農林水産振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・金井運動用建物について、耐用年数は経過しているものの大規模な修繕等はない。 ・市内ゲートボール大会が年 30 回程度開催されており、ゲートボール協会から佐渡の中核施設として維持してほしいとの声もある。 ・施設の方針としては、大規模修繕が必要になるまでの間は維持していきたい。
社会教育課 社会体育係	<p>【プール、他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐渡スポーツハウスプールは市内で唯一通年営業している温水プール。 ・市内プール利用者の 8～9 割をスポーツハウスプールで占めている。 ・各プールは地元中心の利用。スポーツハウスのみ全島の方が利用。 ・スポーツハウスプールに係る維持管理費は、燃料費、機械の入替えが主な部分。 ・ボートハウスと艇庫は、マリンスポーツ用品が保管に利用。 <p>維持管理は、警備の費用が若干かかっている程度。</p>
B 委員	<p>ゲートボール場が畑野地区に 4 か所ある。他地区と比べ多いのはなぜか。</p>
社会福祉課	<p>昔のゲートボールブームの際に、地元集落の方で土地を提供するのでゲートボール場を整備してほしいという要望があったようだ。お恐らくその関係で畑野地区にたくさん残ってる状況。</p>
	<p>【グループワーク】 体育施設</p> <p>I. 施設の選別</p> <p>II. 30 %削減プランで生じうる課題</p> <p>III. 課題を克服するための改善策</p>
	<p>【A 班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使用頻度の少ないものは廃止と考えた。特にテニスコートは週に 1 人程度の利用なので。 ・借地料が気になる。しかし借地解消も原状復旧などが大変であり、荒れて景観にも悪影響が出るのが心配。 ・借地に関して、値下げ交渉をしてみてもよいのではないか。 ・ネーミングライツで少しでも収益の足しにしたらどうか。 ・ゲートボール人口は多いが、利用率が低いものは廃止。
	<p>【B 班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域性、利用者数、固定利用（学校）を加味して判断した。 ・地区の範囲内で類似施設を整理し、新しく施設が充実しているものを維持。 <p>球場はナイター設備があるのを優先的に維持。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ボートハウス、艇庫に関しては、集約化できるのではないか。 また、加茂湖ボートハウスは民間に移譲できないか。 ・B&Gのプールは小学校プールとして利用があるので維持。 ・テニスコートも部活動で使用しており維持。 ・スキー場は、他の機能との複合も無理なので維持。
C 委員	スキー場を民間譲渡する場合、こういった条件が望ましいのか。
ファシリテーター	ある程度経営として成り立つ可能性があることではないか。
C 委員	スキー場は、行政で持つ必要があるものなのか。
事務局	学校授業などでも使うので必要ではないか。
A 委員	<p>昔は民間のスキー場もあったが、今は1つになり利用者も集約している。 元々民間であったこともあるので、民間譲渡の可能性もゼロではないかと思う。</p> <p>【C 班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・借地料と稼働率を判断基準として選別。 ・借地料が高いから廃止というとは必ずしもそうではない。 ・同様の機能を持つグラウンド等が隣接している場合、借地料を払い維持しているものがあれば優先的にきちんと使っていく。 ・スポーツ人口や流行りとも合わせて考えていく必要はあるのではないか。
アドバイザー	<p>施設に経費情報が明確でないと思う。延床面積ベースで支出が整理されているが延床では語れない。維持管理費がどれだけかかり、借地料がどれだけ変わっているか、もっとつまびらかにして議論していかないといけない。</p> <p>借地について、行革でも借地を全部解消しようという方針を立てている自治体もある。借地を全廃する方針を立てている自治体もあるぐらいなので、1度借地をすべて解消、もしくは買い取るのどちらかで解消する観点で検討してみてもよいのではないか。</p> <p>3) その他 次回の会議日程について ・2月20日(火)18時30分開催予定とする。</p> <p>3 閉会 (齊藤財産管理課長より閉会の挨拶)</p>